

希少植物保全活動の最前線

→→希少植物はいかに保全すべきなのだろうか→→

希少植物を域外保全しているとき、なぜ野生復帰がうまくすまないのだろうか？ 遺伝的多様性はどうなっているの？ もしかしたら、これらはクローン個体なのか？ そもそもこの植物は、どこの由来なのか？ その疑問を一つずつ解決することから、この研究は始まりました。どのように遺伝解析を行い、それを現場で活用したのか。バラバラな情報をどのようにデータベース化して、希少植物にかかわる様々な人が使えるシステムにしたか。そして、野生復帰ためのどのような保全活動を行ってきたか、今後の保全活動のあり方について考えます。



2017年1月28日(土) 13:00~17:00

京都府立植物園 植物園会館2階研修室(参加申し込み不要)

第1部 保全と遺伝解析

瀬戸口浩彰 (京都大学大学院)

上原浩一 (千葉大学)

服部千恵 (京都大学大学院)

第2部 QRコードを使用したネットワーク

伊藤元己 (東京大学大学院)

中川真喜子 (京都大学大学院)

第3部 植物園での試み

長澤淳一 (京都府立植物園)

平塚健一 (京都府立植物園)

ディスカッション

【主催】京都大学大学院人間・環境学研究科 瀬戸口浩彰研究室 <http://www.ikigaihozen-network.jp/>

【共催】京都府立植物園・日本植物園協会

※本研究は、環境省・環境研究総合推進費・【4-1403】にて実施しました。